



# 家庭内における男性活躍の推進について

---

～ひろしま共育て大調査結果（速報）を受けて～

広島県  
令和7年2月

- 1 ひろしま共育て大調査の結果について（概要）
- 2 今後の方向性について

# ひろしま共育て大調査概要

## 【目的】

- 共働きが増加する中で、依然として、女性に家事・育児負担が偏っている傾向にあり、そのことが、子供を持ちたいという希望を実現する上での大きな課題となっている。
- このため、家庭内にある具体的な家事・育児の認知度や、それらの家事・育児を誰がやっているかを見える化するため、「ひろしま共育て大調査」を実施。
- 結果については、男女がともに家事・育児に主体的に参画する「共育て」の定着を図るため、より効果的な施策の検討に活かしていく。

## 【概要】

名称	家事・育児「見える化」キャンペーン：ひろしま共育て大調査
期間	令和7年1月17日（金）～令和7年1月30日（木）
対象者	広島県民（既婚者、パートナーがいる方）
実施方法	Webアンケート
回答者数	2,950人（うちオープン調査：2,320人、うちモニター調査：630人）



## 【家事・育児の役割分担について】

- 家事では、「ゴミ捨て」を除き、主に女性が実施との回答が最も多く、就業者でも回答割合の傾向は同様であった。項目ごとに見ても、一部を除き、主に女性が実施との回答が最も多かった。
- 育児では、「子供の生活」「子供のお風呂」を除き、主に女性が実施との回答が最も多く、就業者でも回答割合の傾向は同様であった。項目ごとでは、分担が最も多い項目もあるが、多くの項目では主に女性が実施との回答が最も多かった。

## 【男女間の認識差について】

- 家事・育児ともに、いずれのカテゴリー・項目においても、男女の比較では、「主に男性が実施」「分担」との回答は男性回答者で多く、「主に女性が実施」との回答は女性回答者で多く、男性が自分又は分担していると思っていることについても、女性は自分が行っていると思っていることが示唆された。

## 【認知】

- 認知について、家事では、男性の「料理」に伴う行動の認知率が低めであり、女性との差も比較的大きかった。
- 育児では、多くの項目で男女で5%程度の差（女性が高い）が見られた。

## 【満足度】

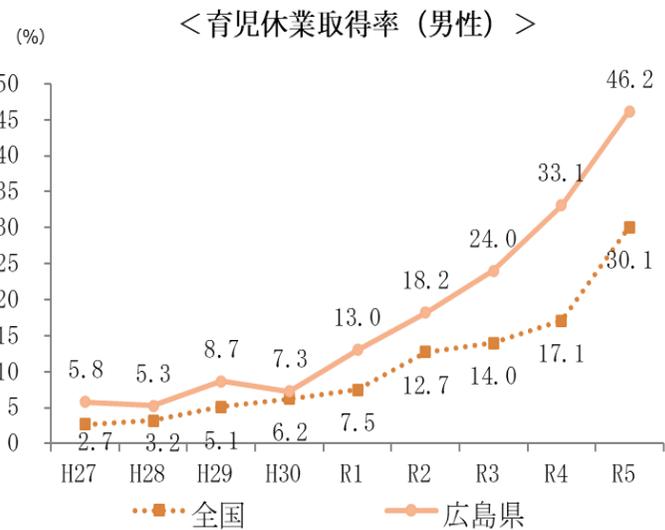
- 家事・育児分担の満足度について、男性は概ね（約9割）満足と感じているが、女性は満足と感じているのは約6割であった。

- 1 ひろしま共育て大調査の結果について（概要）
- 2 今後の方向性について

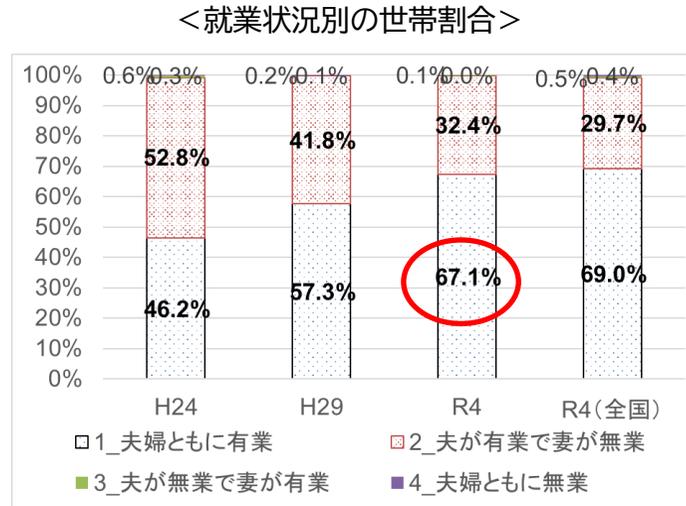
# 現状・課題①

- 平成27年に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）が成立し、本県においても、職場における女性の活躍推進に取り組み、女性の就業率の上昇など、着実な前進がみられている。また、働き方改革の取組にも力を入れてきたところであり、長時間労働の削減や男性の育児休業取得率の向上などに一定の成果がみられている。
- しかしながら、共働き家庭が7割※<sup>1</sup>近くとなる一方で、家庭内では依然として、女性に家事・育児の負担が偏っている傾向にあり（共働き世帯の家事・育児時間は、女性は男性の約3.6倍※<sup>2</sup>）、また男性の育休がいわゆる「とるだけ育休」※<sup>3</sup>となっている場合もある。

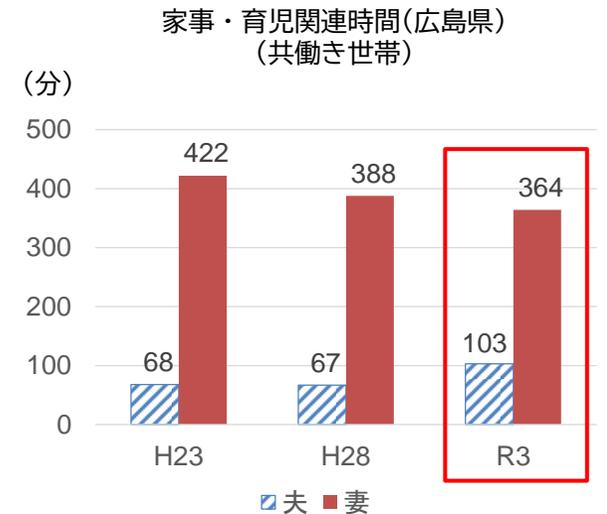
※<sup>1</sup>は「就業状況別の世帯割合」※<sup>2</sup>は「家事・育児関連時間（広島県）（共働き世帯）」、※<sup>3</sup>は参考資料参照



(広島県職場環境実態調査)



(令和4年就業構造基本調査 第140表)

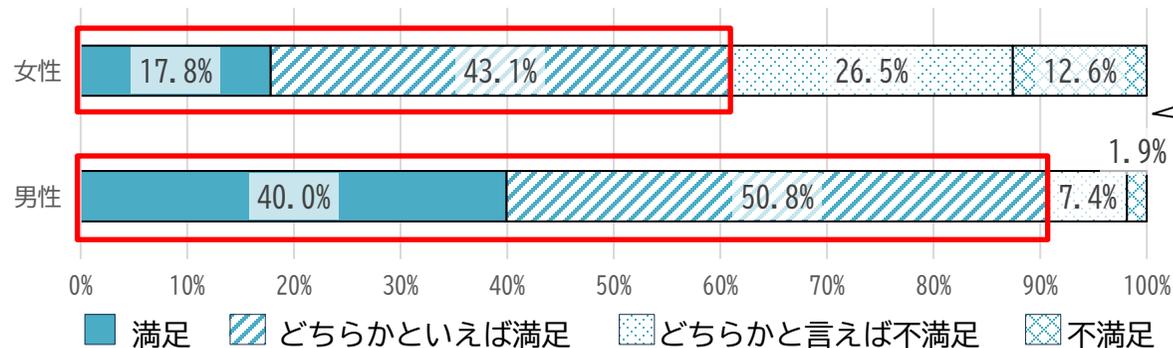


(令和3年社会生活基本調査) ※6歳未満の子のいる世帯、子供と夫婦から成る世帯

## 現状・課題②

- 今回の調査の結果においても、現状として、家事・育児の多くの項目を主に女性が実施していることが明らかとなり、また、男性は自分が実施または分担していると思っているが、女性はそう思っていない場合もあるという認識のギャップが明らかとなった。そのギャップの存在は、満足度のギャップにもつながっていると考えられる。

Q. 夫婦（パートナー同士）間における家事・育児分担に満足していますか。



お互いが納得できるよう、満足度のギャップを埋めることが重要ではないか

# 現状・課題③

- 家事・育児時間については、「増やしたい」よりも「減らしたい」と思っている女性が多く、逆に「減らしたい」よりも「増やしたい」と思っている男性が多い。また、昨年度の県の調査では、男性既婚者の約半数が家事・育児をもっと頑張りたいと思っていることから、それぞれの希望をかなえることができれば、女性の負担を軽減できるのではないかと考える。
- 「女性活躍」については、女性が仕事も家事・育児ももっとやるというものではなく、その負担（特に家事・育児の負担）を軽減することができれば、職業生活を含め、より様々な希望がかなえられるのではないかという視点が重要であり、そのためには、家庭内において、お互いが家事・育児に主体的に取り組むことが大切となる。

(参考) 「育児などに女性の方がより多くの時間を費やすことが、職業面での女性活躍が進まない要因の一つ」という意見について、8割以上が「そう思う」と回答している（内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和4年11月調査））。

令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査(内閣府委託調査)

20-39歳・子供がいる		減らしたい 計(%)	増やしたい 計(%)	40-69歳・子供がいる		減らしたい 計(%)	増やしたい 計(%)
仕事時間	女性 (n=865)	23.2	28.6	仕事時間	女性 (n=3,023)	12.7	22.5
	男性 (n=941)	34.1	16.6		男性 (n=3,760)	25.7	10.2
家事・育児時間	女性 (n=1,142)	33.5	14.4	家事・育児時間	女性 (n=4,613)	20.2	6.0
	男性 (n=959)	14.1	27.7		男性 (n=4,149)	7.6	14.3
家族と遊んだり くつろいだり する時間	女性 (n=1,142)	5.0	44.1	家族と遊んだり くつろいだり する時間	女性 (n=4,613)	2.1	25.2
	男性 (n=959)	6.0	42.2		男性 (n=4,149)	3.4	30.7

・(自身について)家事・育児をもっと頑張りたいと思うか(男性回答n=1171)

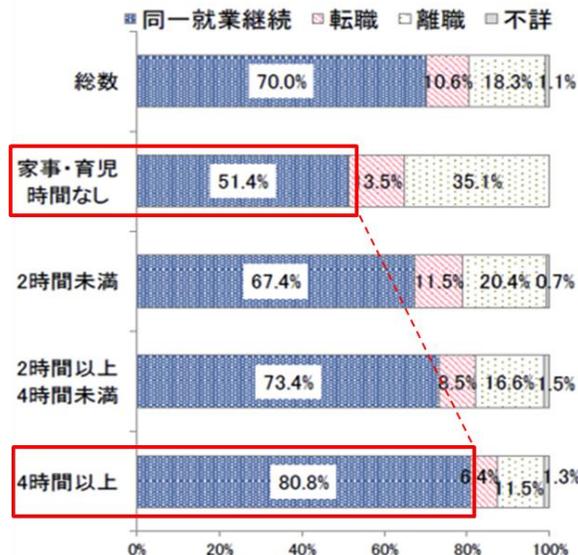
頑張りたい	どちらとも いえない	頑張れない
47.7%	41.1%	11.3%

(R5広島県少子化対策・子育て支援に関する調査)

# 男性の家事・育児参画促進により 期待されること

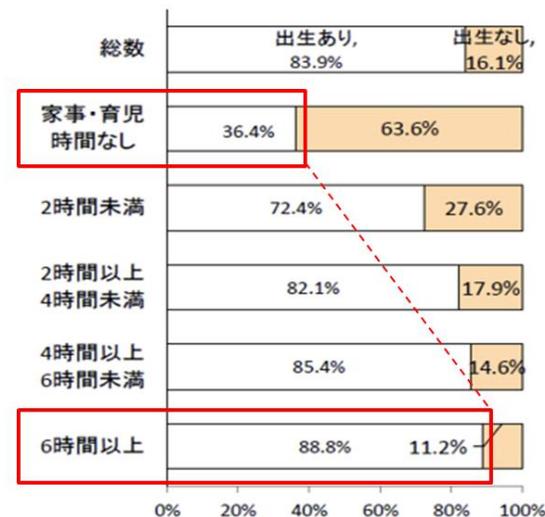
- 男性の家事・育児参画を促進することにより、家庭内の女性の負担軽減につながるとともに、協力して家事・育児を実施することで、認識のギャップ、満足度のギャップの軽減につながることが期待される。
- また国の調査において「夫の家事・育児時間が長いほど、妻の就業継続割合が高く、第2子以降の出生割合も高い傾向」が示されており、男性の家事・育児参画促進は、女性の職業生活における更なる活躍、引いては男女共同参画社会の形成の促進につながるとともに、子供を持ちたいという希望の実現にもつながることが期待される。

【夫の平日の家事・育児時間別にみた妻の出産前後の継続就業割合】



資料出所：厚生労働省「第10回21世紀成年人者縦断調査（2012年成年人者）」（調査年月：2021年11月）より作成

【夫の休日の家事・育児時間別にみた第2子以降の出生割合】



資料出所：厚生労働省「第10回21世紀成年人者縦断調査（2012年成年人者）」（調査年月：2021年11月）より作成

# 男性の家事・育児参画促進にあたって 大切なこと

- 男性の家事・育児参画促進にあたっては、家庭内の状況は様々であるため、一律にこういった形が理想と示すものではなく、対話等を通じてお互いが納得していることや、感謝の気持ちが土台となる。
- また、女性への家事・育児負担の偏りは、当事者の意識・行動だけに起因するものではなく、「仕事により帰りが遅い」など職場環境に起因するものや、性差に関する固定的な役割分担意識にも起因していると考えられることから、企業など多様な主体を巻き込み、社会全体で取り組む必要がある。

【男性の家事・育児参画を阻害する要因】

男性 (自身について) n=244	自身の家事・育児のスキルが不十分で時間がかかるから	パートナー(配偶者)が自分に家事・育児を任せてくれないから	家事・育児は、パートナー(配偶者)の役割だから	自身の仕事が忙しく、家に帰る時間が遅いから	家事・育児をしたくないから	子どもが自分になつからないから	家族と離れて暮らしているから	自身は仕事を頑張っているから	家事・育児を頑張らなくても、よい/問題ないから	その他	特になんたなく
	20.8	8.3	7.8	35.7	9.0	2.8	2.3	21.6	13.5	2.8	16.6
女性 (パートナーについて) n=265	パートナー(配偶者)のスキルが不十分で時間がかかるから	自分がパートナー(配偶者)に家事・育児を任せていないから	家事・育児は自分の役割だから	パートナー(配偶者)は仕事が忙しく、家に帰る時間が遅いから	家事・育児を自分事だと思っていないから	子どもがパートナー(配偶者)になつからないから	家族と離れて暮らしているから	パートナー(配偶者)は仕事を頑張っているから	家事・育児を頑張らなくても、よい/問題ないから	その他	特になんたなく
	31.2	21.6	12.0	40.3	49.4	7.9	1.9	33.7	5.8	3.8	3.7

(R5広島県少子化対策・子育て支援に関する調査)

- 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）などの後押しもあり、女性の職業生活における活躍が進む中で、女性に負担が偏っている現状があることから、家事や育児といった家庭内での男性の活躍を図るため、あえて「男性活躍」という言葉を用い、本年を「男性活躍推進元年」として、取組に注力していく。
- 具体的には、家庭内の状況は様々であり、一律の理想の形はないが、家事・育児を自分事としてとらえ、手伝う、やっているつもりではなく、お互いが納得できるよう、例えば今回の調査で男性の実施・分担が低い項目、認識のギャップが大きい項目などに着目し、意識変容、具体的な行動につながる取組を実施する。
- さらに、企業など多様な主体を巻き込み、社会全体で「共育て」を推進する気運醸成や環境整備を図るとともに、県としての理念を共有しながら、より強力に男性の家事・育児参画促進を推し進めるため、「男性の家庭生活における活躍の推進に関する条例（仮称）」（男性活躍推進条例）の策定を検討する。

# 男性の家庭生活における活躍の推進に関する条例（仮称）について ～男性活躍推進条例～



## 【目的】

男性の家庭生活における活躍の推進について、  
基本理念を定め、  
県の責務並びに県民及び事業者等の役割を明らかにするとともに、  
施策の基本となる事項を定めることにより、  
男女を問わず（性別に関係なく）協力して家事や子育てを行う共育ての定着を図り、  
これにより、県民が子育てしやすく、暮らしやすい広島県の実現を図る。

## 【今後の予定（案）】

- ・ 条例原案の作成、パブリックコメント など